真理子先生の 女性のミカタ

乳がんについて

院長
伊藤 真理子
プロフィール
●(いとう・まりこ)1986年山形大学医学部卒業。山大病院、篠田病院を経て2005年6月に真理子レディースクリニックを開業。日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医。

6月9日、歌舞伎俳優の市川海老蔵さんが緊急会見を開いて奥様の小林麻央さんが進行性の乳がんであることを明かし、世間に衝撃が走りました。

うかがえば、麻央さんは33歳という若さとか。海老蔵さんの口から病状が「深刻」と聞き、痛ましさを覚えると同時に「私は大丈夫かしら?」と不安になられた方も多いことでしょう。

日本人女性の12人に1人

日本人の2人に1人は一生の間に何らかのがんを発症するとされ、現在、日本人女性の12人に1人は乳がんにかかるといわれています。

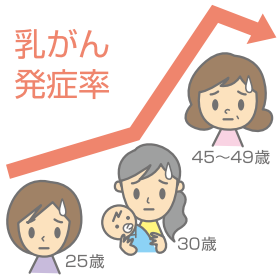
国立がん研究センター(東京)の調べによれば、2015年に新たにがんになった日本人女性の数は左の通りです。

① 乳がん・8万9400人
② 大腸がん・5万7900人
③ 肺がん・4万2800人
④ 胃がん・4万2200人
⑤ 子宮がん・3万人

若い女性も増加

乳がんの発症は女性ホルモンが影響しているとされ、欧米化した食生活の影響か、麻央さんのように若い女性の発症率が高いことは意外に知られていないようです。

国立がん研究センターのウエブサイトによれば、25歳～30歳ごろから発症しはじめ、30歳を過ぎると急激に増え、45歳～49歳が発症のピークとされます。



治癒率は高く

ただ、乳がんは早期に発見し、適切な治療を行えば治癒率は高いとされます。15年にがんで亡くなった日本人女性の数は右下の通りです。

① 大腸がん・2万3400人
② 肺がん・2万1900人
③ 胃がん・1万7000人
④ すい臓がん・1万6200人
⑤ 乳がん・1万3800人

このように、発症数に比べ亡くなった人の数が少ないのがお分かりいただけると思います。

若い人も検診を

大切なのは早期発見です。県内の市町村が助成する乳がん検診は40歳からですが、若い女性の発症が増えていることを考えれば、若い方も1度は検診を受けていただきたいものです。

検診はマンモグラフィというレントゲン撮影や超音波検査が中心で、保険が使えなければ高額な出費になりますが、安心には代えられません。

自己触診のススメ

検診を受けて「今は大丈夫」というお墨付きをもらったら、その時の乳房を触診して正常な状態を覚えておきましょう。

後は毎月の自己触診。若い方なら月経直後、乳房がしんなりする時期に。月経前のパンパンに張った乳房では分かりにくいものです。

自己触診の要点は「見る」「触る」「つまむ」。左記の表を参考にして行ってみて下さい。

	視診	触診①	触診②
方法	鏡を見ながら座ったり立ったりして。	4本指で反対側の胸を触る。指の腹で「の」の字を書くように乳頭に向かって触る。又は放射線状に乳頭に向う。	乳頭を軽くつまみ、しぼって観察。
注意点	・左右の形の差 ・ひきつれ ・くぼみ がないかを観察	・シコリがないか丹念にチェック	・血性や乳状の分泌物はないかチェック

シコリが見つかれば

検診や自己触診でシコリが見つかった場合、迷わず専門医のいる病院で診てもらいましょう。シコリには良性のものもありますので、シコリの存在だけで必要以上に心配することはありません。

ただ、疑わしげな箇所が認められると、病院では針を刺して細胞や組織を確認します。そこで悪性の場合は乳がんと診断されます。

4段階あるステージ

乳がんは発生する場所や大きさ、細胞の性質により治療の方法が異なります。それぞれの進行具合を示すステージは1から4までであり、腫瘍の広がり方、リンパ節への進行具合や全身への広がりなどで決まります。

治療法は?

治療は患者さんの状態やステージにより、局所療法である手術や放射線と、全身療法である薬物療法があります。薬物療法といえば抗がん剤が一般的ですが、がん細胞に特異的に効く分子標的薬もあります。

また、乳がんは女性ホルモンの影響で増殖が進むタイプもあり、女性ホルモンの影響を抑える「ホルモン療法」もあります。

手術には腫瘍と周囲だけを切除する「乳房温存術」と「乳房切除術」がありますが、現在では可能な限り手術のみに頼らない治療が主流になっています。

◆

乳がんはゆっくり進む場合もあり、一生つき合う気持ちで向き合うことが大切です。

〈産婦人科〉
真理子レディースクリニック
☎023-632-0666　山形市小姓町 6-35
●診療時間
【平日】午前/8時30分～12時
午後/14時～17時
【木曜】午前/8時30分～11時
【土曜】午前/8時～11時
●休診日
日・祝祭日
木・土曜日は午後休診となります。